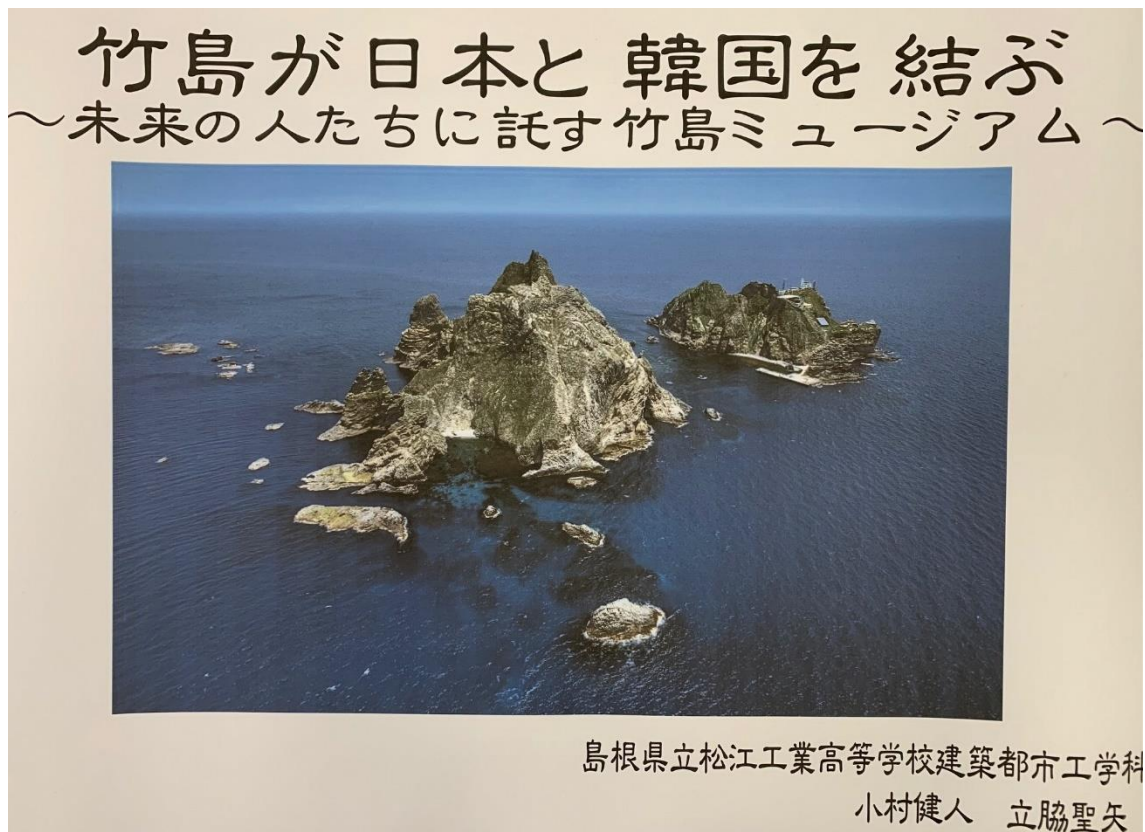


令和 2 年度高校優秀卒業設計審査会で 2 組の作品が優秀賞を受賞

日本建築学会中国支部主催の令和 2 年度高校優秀卒業設計に本校からは 2 作品の応募を行いました。この度 2 月 6 日（土）に審査会が開催され結果発表がありました。その結果、2 作品ともに優秀賞を受賞することが出来ました。これは本校では何年ぶりの快挙で、2 作品 4 名の諸君は春から課題研究で取り組んでいましたが朗報に喜びを感じていました。受賞者は以下の通りです。

優秀賞 3 年 小村 健人（松江三中出身）・立脇 聖矢（松江一中出身）
「竹島が日本と韓国を結ぶ～未来の人たちに託す竹島ミュージアム～」



島根県立松江工業高等学校建築都市工学科
小村健人 立脇聖矢

コンセプト

- 竹島問題とは何なのか？
- (1) 竹島が日本と韓国いずれかの国に属するのかをめぐる争い
 - (2) 発端は韓国初代大統領の「李承晩ライン」宣言（1952年1月）
・サンフランシスコ平和条約の調印（1951年9月）、同条約の発効（1952年4月）
・日本漁船を襲撃
 - (3) 竹島の韓国における不法占拠（1954年6月）
・警備隊員の常駐、接岸施設やヘリポートの建設など、60年以上にわたり不法に占拠。
・切手の発行や国立公園の指定、住民の居住などの実力支配。
⇒これは国際法上、何ら根拠のない占拠（日本政府は韓国に対し、その都度抗議）
 - (4) 我が国の主権が行使できない状況。
・自由に竹島を訪問することができない。
・竹島周辺海域では漁業権が行使できない。
・暫定水域（山口県から兵庫県沖まで）が設定され自由に操業できない。
・メタンハイドレートなど地下資源を利用できない。
・国境に位置し、国防の観点から重要など一単に島根県だけの問題点ではない。
 - (5) 隣国である韓国と真の交友関係を築くことができない。
これらのことから、竹島問題を巡った日韓の和解を目指し、日韓交流をテーマとした文化施設を提案する。
- 来場者がこの施設を訪れて竹島について知り、考え、友好関係を築くことを目的として計画する。そのためには、竹島について日本の立場の展示と韓国の立場の展示を常設し、各国それぞれの意見を主張できるようにする。また、来場者が施設を巡回し終えた時には、お互いを認め合い、分かり合えるような建物とする。さらに、竹島の日の2月22日と独島の日の10月25日から、毎月22日から25日の4日間を交流イベントとしてライブ、ダンスなどができるステージを設けたり、日本、韓国の特産物の展示や土産店を出店したりして、お互いの文化交流の場を作る。
- この施設が直接、解決には至らないかもしれないが、この交流をきっかけに、少しでもわだかまりを減らしていくことができれば、両国の関係が改善され、領土問題の解決を未来に託す懸け橋となるかもしれない。

S=1/200
0 5 10 15 20 25 30m



デザインの考え方

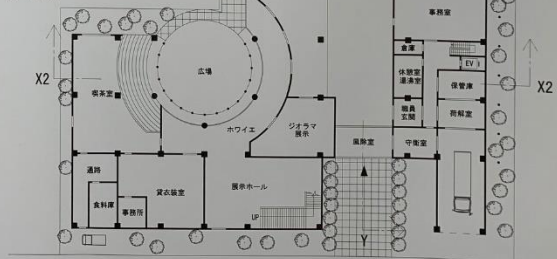
1階「町の広がり」

島の中央の広い道を中核ストリートと見做し、そのストリートの両側には、日本、韓国の特産物を並べ、カフェ、衣料店、文芸（ブティック）が並び、町並みとしてまとまりを創出する。また、建物と建物の間を歩行者も車も通れるが、これらを含めてあることで様々な利用者のニーズに対応し、気候性、美しさも考慮した「賑わいの空間」となっている。

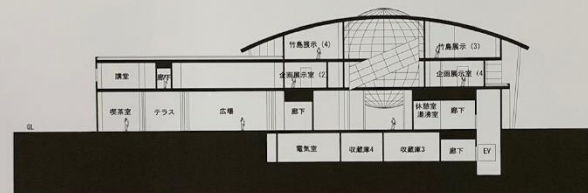
配置図兼1階平面図 S=1/200



地階平面図 S=1/200

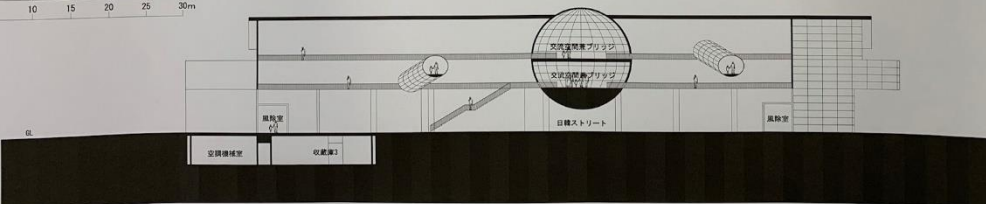


X1-X1断面図 S=1/200

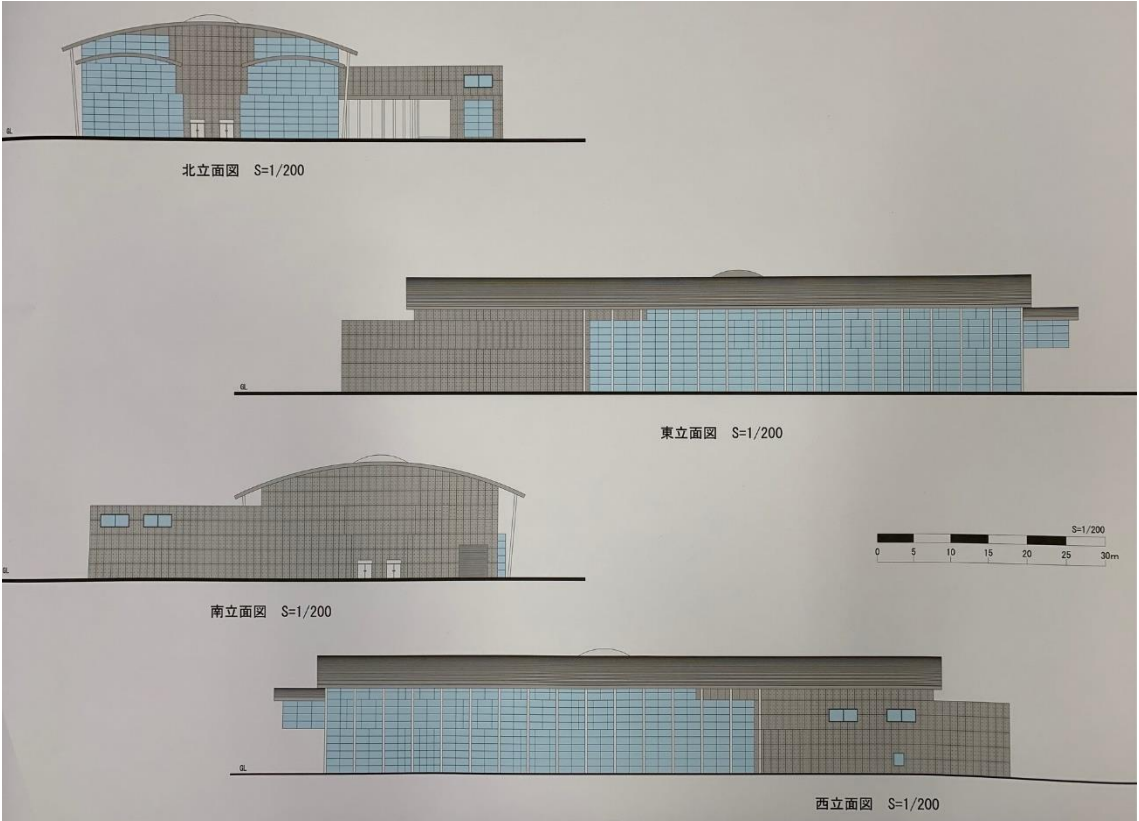


X2-X2断面図 S=1/200

S=1/200
0 5 10 15 20 25 30m



Y-Y断面図 S=1/200



優秀賞

3年 大谷 一真（本庄中出身）・土江 祐貴（宍道中出身）

「【新・神】玉造温泉駅～人と人のご縁をお持ち帰りください～」



